

○計画期間:平成29年4月～平成34年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点(令和3年3月31日時点)の中心市街地の概況

熊本地震から5年が経過する中、後述する桜町地区再開発事業や熊本駅周辺における整備事業といった主要な事業が完了する等、中心市街地活性化基本計画に掲げる震災からの復興が進んでいる。一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響による、市民の外出自粛やイベント等の中止は、本市の中心市街地における賑わいの創出に大きな打撃を与えている。

熊本城地区では、熊本城復旧基本計画に基づき、効率的・計画的な復旧を進めるとともに、戦略的な公開・活用に取り組んでいる。令和2年3月に完成した特別見学通路は、同年6月より特別公開第2弾として公開され、これまでと違う視点で被害状況や復旧中の熊本城を観覧していただくことができるようになった。また、令和3年3月には天守閣が完全復旧し、同年4月から特別公開第3弾（天守閣内部公開）を予定している。

通町筋・桜町周辺地区では、通町筋周辺において、令和2年2月に閉店した「熊本パルコ」ビルの解体が始まり、跡地で予定されている複合ビルの建設計画が進んでいる。この複合ビルには「熊本パルコ」の新業態での再出店が検討されている。

桜町周辺において、桜町地区再開発事業により、バスターミナル、商業施設「SAKURAMACHI Kumamoto」、「熊本城ホール」を含む再開発施設が令和元年に開業した。また、これに隣接する花畑広場（シンボルプロムナード含む）では、2つの既存都市公園を含めて一体的にオープンスペースとして利活用するための工事を令和2年1月から実施しており、令和3年4月には花畑公園の供用開始、同年秋には全体の工事完了・供用開始を予定している。

新町・古町地区においては、歴史的建造物の利活用を促すための制度・体制の構築が図られた。また、町屋等の歴史的建造物を保存・活用することで景観資源としての価値を活かし、昔ながらの外観を保ちつつもその用途をカフェやゲストハウスとして利用する等、町屋保存に向けた動きが近年広がっている。

熊本駅周辺地区では、JR熊本駅周辺の連続立体交差事業とともに整備が進められてきたJR熊本駅の在来線新駅舎が平成31年3月に供用を開始し、令和3年3月には熊本駅白川口（東口）駅前広場が完成した。今後は、令和3年4月に開業を予定するJR熊本駅ビルが新たに整備されることで、駅の利用者や観光客の利便性を高めたくまとの玄関口としての役割が更に向上されるものと期待されている。

なお、令和元年に開催されたラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会の二つの国際スポーツ大会に国内外から多くの観光客が来熊したことに伴い、交流人口が拡大し、市内はもとより中心市街地の活性化を図ることも繋がったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光客数が減少する等人々の交流機会が減少した。

今後は震災からの復興を進めるとともに、新しい生活様式に対応したまちづくりを進める等、時々刻々と変わる中心市街地の状況に対応しつつ、これまで以上に中心市街地の活性化に取り組

むものである。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和28年度 (計画前年度)	令和29年度 (1年目)	令和30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)
人口	36,792人	37,013人	37,132人	36,994人	37,202人	
人口増減数	▲241人	221人	119人	▲138人	208人	
自然増減数	▲60人	▲18人	▲62人	▲109人	▲31人	
社会増減数	▲181人	239人	181人	▲29人	239人	
転入者数	4,544人	4,133人	4,268人	4,284人	4,452人	

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和28年度 (計画前年度)	令和29年度 (1年目)	令和30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)
中心市街地 商業地域平均	478,083	488,583	551,583	644,416	745,750	
下通1丁目 12番23	898,000	915,000	1,040,000	1,250,000	1,460,000	
上通町 1番16	915,000	930,000	1,050,000	1,230,000	1,380,000	
花畑町 12番6外	409,000	414,000	455,000	535,000	665,000	
新町1丁目 7番36外	148,000	151,000	158,000	173,000	188,000	
中央街 4番30	383,000	392,000	425,000	498,000	595,000	
上鍛冶屋町 8番2	182,000	184,000	192,000	201,000	208,000	
呉服町2丁目 36番1外	191,000	193,000	202,000	212,000	219,000	
草葉町 4番9	284,000	292,000	315,000	362,000	415,000	
下通1丁目 3番3	1,390,000	1,440,000	1,760,000	2,130,000	2,470,000	
安政町 4番11	343,000	349,000	376,000	424,000	495,000	
辛島町 4番6	327,000	330,000	351,000	388,000	469,000	
上林町 1番25外	267,000	273,000	295,000	330,000	385,000	

2. 令和2年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 28 年 4 月発災の熊本地震から 5 年が経過し、中心市街地においては、ビルや店舗等の復旧・復興が着実に進み事業再開するなど、創造的復興に向け順調に歩みを進めている。

令和元年度、中心市街地の 2 核 3 モールの一核をなす桜町地区の再開発事業においては、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等を含む再開発施設が開業したことにより、中心市街地の賑わいの創出に大きく貢献した。

また、熊本地震によって、大きな被害を受けた熊本城も大天守の外観復旧工事が完成し、第 1 弾、第 2 弾の特別公開が行われる等、着々と復旧が進行し、市内外からの集客にも貢献してきた。

さらに、熊本駅周辺の事業においても、2021 年 4 月に開業が予定される駅ビルとそれにつながる駅前広場の整備も着実に進められており、完成後は広域からの集客に繋がるものと思われる。

この様に、これまで官民が密接に連携して取り組んだ各種事業により、基本計画が概ね順調に進捗していることは応分の評価をしているところである。

しかしながら、長引く新型コロナウイルス感染症の影響は、地域においても観光業、飲食業はじめ多くの業種に大きな打撃を与えており、また、収束時期等先行きも見通せない状況からも、中心市街地活性化基本計画における目標の達成など各種事業に与える影響を懸念するところである。

協議会としても、今後の事業推進については、「熊本市中心市街地グランドデザイン 2050」における協議・検討の状況や新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら関心をもって対応していきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
にぎわいあふれる城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762 人/年 (平成 28 年度) (2016 年度)	2,650,000 人/年 (令和 3 年度) (2021 年度)	1,240,225 人/年 (令和 2 年度) (2020 年度)	C	①	1
安心してずっと暮らしたいまち	中心市街地内の居住人口	36,604 人 (平成 28 年 10 月 1 日) (2016 年 10 月 1 日)	37,000 人 (令和 3 年度 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	37,175 人 (令和 2 年 10 月 1 日) (2020 年 10 月 1 日)	A	①	①
誰もが訪れてみたくなるまち	熊本市内の宿泊客数	2,637,637 人/年 (平成 27 年) (2015 年)	3,000,000 人/年 (令和 3 年度) (2021 年)	— 人/年 (令和 2 年) (2020 年)	—	②	—

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

① 目標達成が見込まれる ② 目標達成が見込まれない

※ 関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市内外からの観光客が減少したことから目標値を大きく下回った。しかしながら令和元年度までの推移や、今後熊本城天守閣の一般公開や花畑広場の完成が予定されていることを考慮すると、目標達成は可能と判断する。

「中心市街地内の居住人口」については、企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大を図るとともに、UIJ ターン促進による居住の増加に取り組むことにより、目標値を上回った。

「熊本市内の宿泊客数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宿泊客数の集計に時間を要しているため最新値の更新が行えなかった。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、令和元年度時点で目標値を上回っているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、最新値は減少している。

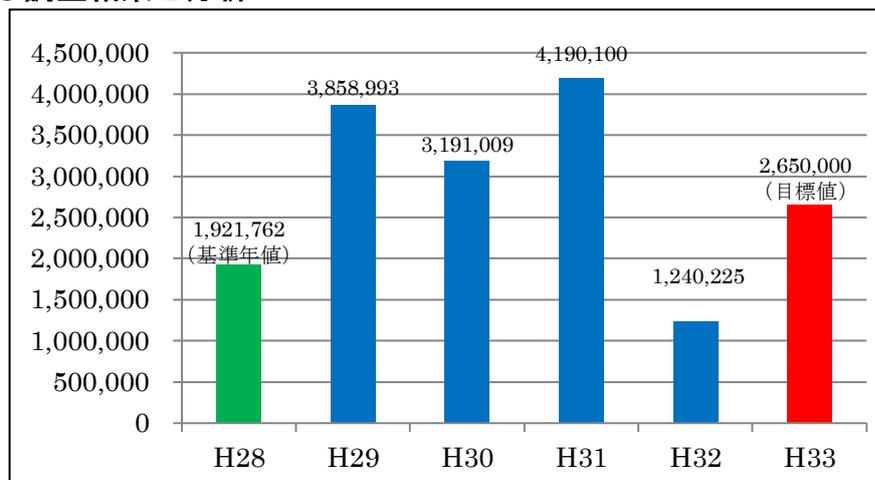
特に、熊本城周遊バス運行事業や中心商店街地区魅力向上事業といった事業においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、市内外からの観光客数が大きく減少していることから、それぞれの事業の指標であるバス利用者、集客数が半数以下の状況となっている。

しかしながら、今後、新型コロナウイルスのワクチン接種が予定され、さらに、「熊本城復旧整備事業」による熊本城天守閣の一般公開や「シンボルプロムナード等整備事業」による花畑広場の完成が予定されていることから、目標達成は可能と判断する。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 75 参照

●調査結果と分析



年	(単位) 人/年
H28	1,921,762 (基準年値)
H29	3,858,993
H30	3,191,009
H31	4,190,100
H32	1,240,225
H33	2,650,000 (目標値)

※調査方法：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者を計測

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者

〈分析内容〉

熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者に寄与する事業のうち、後述するハード整備事業については予定通り進捗し、一部は完了したが、熊本城と城彩苑はそれぞれ前年度比4割程度と入込数が減少している。このことは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、市内外からの観光客数が大きく減少したことが原因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城復旧整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	復興のシンボルである「天守閣」をはじめ、石垣・建造物や便益施設等を含む熊本城全体の復旧を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁）（H29年度～R3年度） 都市災害復旧事業費補助（国土交通省）（H29年度～R3年度） 防災・安全交付金（都市公園安全・安心対策事業）（国土交通省）（H29年度～R3年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>令和2年度熊本城公園への入込数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少した。今後は、令和3年3月の天守閣完全復旧によって、同年4月から予定している特別公開第三弾（天守閣内部公開）にて入込数の増加が見込まれる。</p> <p>【熊本城公園への入込数】</p>
事業の今後について	<p>事業は、熊本城復旧基本計画に基づき順調に進捗しており、令和3年3月に完了した天守閣完全復旧に続いて、同年4月には特別公開第三弾（天守閣内部公開）を予定している。今後も着実に事業を進めていく。</p>

②. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）

事業実施期間	<p>平成20年～令和2年度【済】</p> <p>[認定基本計画：平成20年～令和元年度]</p>
事業概要	<p>民間事業者の再開発事業により、パスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度）</p> <p>[認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度）]</p> <p>防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度）</p> <p>[認定基本計画：防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度）]</p> <p>防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）</p> <p>[認定基本計画：防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）]</p> <p>災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）</p> <p>[認定基本計画：災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）]</p> <p>都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度）</p> <p>[認定基本計画：都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度）]</p>

事業効果及び進捗状況	本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、広域バスターミナルや商業・交流機能等を備えた施設整備を行うことで、桜町・花畑周辺地区の賑わいの創出を図る。 【スケジュール】 令和2年度（2020年度） 清算、終了認可
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、桜町・花畑地区のにぎわい創出の一助となると見込まれる。

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成25年度～令和3年度【実施中】 [認定基本計画：平成25年度～令和2年度]						
事業概要	熊本城と中心市街地との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。						
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～R2年度）						
事業効果及び進捗状況	令和2年度は本格的なシンボルプロムナード等のオープンスペース整備のため、飲食・物販やステージイベント等の利用が行われなかった。 【花畑広場来場者数】 <table border="1" data-bbox="539 1211 1243 1408"> <thead> <tr> <th>平成30年度 (2018年度)</th> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>448,809人</td> <td>1,026,716人</td> <td>0人(イベント等の開催なし)</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール（見込）】 令和2年度（2020年度） 施設工事 令和3年度（2021年度） 施設工事・施設完成	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	448,809人	1,026,716人	0人(イベント等の開催なし)
平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)					
448,809人	1,026,716人	0人(イベント等の開催なし)					
事業の今後について	令和3年秋頃の整備完了に向けて着実に事業を進めていく。						

④. 熊本城周遊バス運行事業（熊本市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	熊本駅を発着とし、熊本城を含む市内中心部等をつなぐ周遊バスを運行する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～R3年度）

事業効果及び進捗状況	<p>熊本駅と熊本城・城彩苑を含む市内中心部等をつなぐことにより、中心市街地内の回遊性向上につながるとともに、熊本城へのアクセスも向上し、熊本城公園への入込数の拡大に寄与するものである。令和2年度バス乗車人数は、新型コロナウイルス感染症の流行による感染拡大防止のための減便や運休、外出行動の抑制によって減少している。</p> <p>【バス乗車人数】</p> <table border="1" data-bbox="513 488 1203 636"> <thead> <tr> <th>平成30年度 (2018年度)</th> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83,417人</td> <td>89,794人</td> <td>40,815人</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	83,417人	89,794人	40,815人
平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)					
83,417人	89,794人	40,815人					
事業の今後について	事業は、観光客等の熊本駅から市内中心部等への円滑な交通手段として定着しており、引き続き事業を進めていく。						

⑤. 中心商店街地区魅力向上事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】						
事業概要	中心商店街において賑わいイベント（STREET ART-PLEX KUMAMOTO）を年に数回開催する。						
国の支援措置名及び支援期間	<p>地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R1年度）</p> <p>[認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R3年度）]</p>						
事業効果及び進捗状況	<p>中心商店街においてパフォーマンスイベントを開催することにより、質の高い中心商店街の賑わい形成を図るとともに、中心市街地内の回遊性向上を図る。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大規模なイベントの中止を余儀なくされ、昨年度と比較し集客数の減少が見られた。</p> <p>【集客数】</p> <table border="1" data-bbox="513 1451 1190 1608"> <thead> <tr> <th>平成30年度 (2018年度)</th> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35,654人</td> <td>19,871人</td> <td>2,222人</td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	35,654人	19,871人	2,222人
平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)					
35,654人	19,871人	2,222人					
事業の今後について	中心商店街での多種多様な賑わい創出イベントとして定着しており、引き続き事業を進めていく。						

●目標達成の見通し及び今後の対策

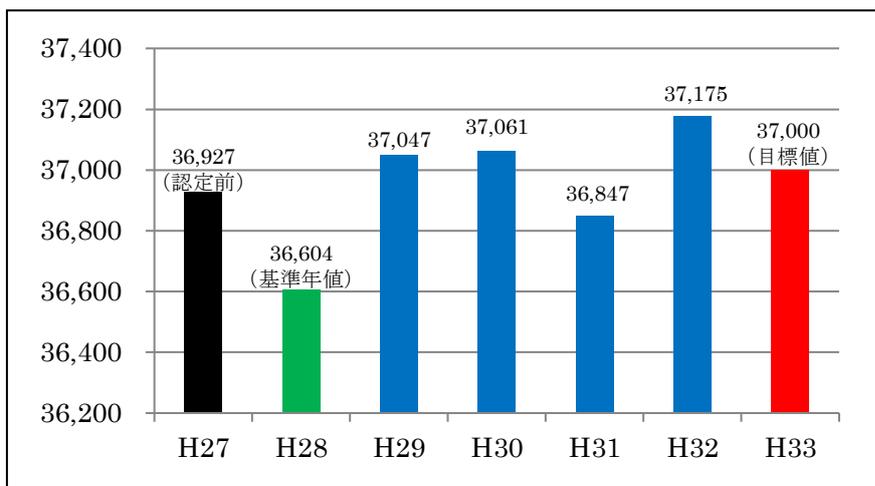
令和2年度は、熊本城の復旧過程を観光資源として活用する取組として、令和2年6月に特別公開第2弾（特別見学通路の公開）を開始し、令和3年3月に天守閣の完全復旧が完了した。これにより令和元年度と同様、熊本市内外の観光客に対し熊本城再建への高い関心を引き起こすことができたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数は目標値を大きく下回った。

しかしながら、令和元年度のフォローアップ時点では目標値を大きく更新しており、また、令和3年4月に特別公開第3弾（熊本城天守閣内部公開）、令和3年秋に花畑広場を含めたオープンスペースの完成による広場全体の本格運用が予定されているため、目標達成は可能だと思われる。

今後は、更なる賑わい創出に向けて、事業を着実に進めていくことで、熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数のさらなる増加を図っていく。

「中心市街地内の居住人口」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H28	36,604 (基準年値)
H29	37,047
H30	37,061
H31	36,847
H32	37,175
H33	37,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：10月1日現在

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地内7校区の住民基本台帳登録者

(参考) 校区別居住人口の推移 (上段：人口(人)、下段：前年度比)

	平成27年 (計画前年度)	平成28年 (1年目)	平成29年 (2年目)	平成30年 (3年目)	令和元年 (4年目)	令和2年 (5年目)
合計	36,927	36,604	37,047	37,061	36,847	37,175
	-	99.13%	101.21%	100.04%	99.42%	100.89%
城東	3,242	3,290	3,253	3,223	3,176	3,070
	-	101.48%	98.88%	99.08%	98.54%	96.66%
慶徳	3,623	3,572	3,671	3,624	3,548	3,814
	-	98.59%	102.77%	98.72%	97.90%	107.50%
五福	3,798	3,727	3,942	3,866	3,838	3,924
	-	98.13%	105.77%	98.07%	99.28%	102.24%
一新	9,767	9,801	9,836	9,933	9,926	10,026
	-	100.35%	100.36%	100.99%	99.93%	101.01%
碩台	6,364	6,458	6,491	6,469	6,329	6,169
	-	101.48%	100.51%	99.66%	97.84%	97.47%
古町	3,228	3,030	3,127	3,165	3,281	3,307
	-	93.87%	103.20%	101.22%	103.67%	100.79%
春日	6,905	6,726	6,727	6,781	6,749	6,865
	-	97.41%	100.01%	100.80%	99.53%	101.72%

(参考) 年代別居住人口の推移 (上段: 人口 (人)、下段: 前年度比)

年齢区分	平成27年 (計画前年度)	平成28年 (1年目)	平成29年 (2年目)	平成30年 (3年目)	令和元年 (4年目)	令和2年 (5年目)
総数	36,927	36,604	37,047	37,061	36,847	37,175
	-	99.13%	101.21%	100.04%	99.42%	100.89%
0~4歳	1,563	1,494	1,553	1,469	1,413	1,377
	-	95.59%	103.95%	94.59%	96.19%	97.45%
5~9歳	1,333	1,321	1,343	1,356	1,324	1,303
	-	99.10%	101.67%	100.97%	97.64%	98.41%
10~14歳	1,353	1,309	1,249	1,267	1,301	1,274
	-	96.75%	95.42%	101.44%	102.68%	97.92%
15~19歳	1,484	1,538	1,577	1,507	1,467	1,423
	-	103.64%	102.54%	95.56%	97.35%	97.00%
20~24歳	2,052	2,024	2,124	2,133	2,089	2,267
	-	98.64%	104.94%	100.42%	97.94%	108.52%
25~29歳	2,421	2,332	2,348	2,480	2,458	2,658
	-	96.32%	100.69%	105.62%	99.11%	108.14%
30~34歳	2,447	2,433	2,474	2,420	2,350	2,358
	-	99.43%	101.69%	97.82%	97.11%	100.34%
35~39歳	2,661	2,455	2,447	2,398	2,356	2,368
	-	92.26%	99.67%	98.00%	98.25%	100.51%
40~44歳	2,908	2,988	2,952	2,820	2,702	2,559
	-	102.75%	98.80%	95.53%	95.82%	94.71%
45~49歳	2,558	2,694	2,792	2,914	2,942	2,947
	-	105.32%	103.64%	104.37%	100.96%	100.17%
50~54歳	2,428	2,381	2,401	2,438	2,527	2,617
	-	98.06%	100.84%	101.54%	103.65%	103.56%
55~59歳	2,265	2,248	2,325	2,356	2,344	2,372
	-	99.25%	103.43%	101.33%	99.49%	101.19%
60~64歳	2,333	2,195	2,151	2,150	2,164	2,198
	-	94.08%	98.00%	99.95%	100.65%	101.57%
65~69歳	2,592	2,743	2,646	2,485	2,290	2,191
	-	105.83%	96.46%	93.92%	92.15%	95.68%
70~74歳	1,912	1,779	1,914	2,100	2,263	2,402
	-	93.04%	107.59%	109.72%	107.76%	106.14%
75~79歳	1,553	1,593	1,611	1,658	1,753	1,714
	-	102.58%	101.13%	102.92%	105.73%	97.78%
80~84歳	1,446	1,418	1,426	1,407	1,325	1,331
	-	98.06%	100.56%	98.67%	94.17%	100.45%
85~89歳	1,005	997	1,042	1,012	1,023	1,038
	-	99.20%	104.51%	97.12%	101.09%	101.47%
90~94歳	463	499	504	519	558	577
	-	107.78%	101.00%	102.98%	107.51%	103.41%
95~99歳	126	144	146	147	178	166
	-	114.29%	101.39%	100.68%	121.09%	93.26%
100歳以上	24	19	22	25	20	35
	-	79.17%	115.79%	113.64%	80.00%	175.00%

〈分析内容〉

中心市街地全体では前年度と比較して人口は増加しており、特に慶徳校区は前年比7%の増加となっている。これは同校区内の桜町再開発事業が令和元年度に完了したことが寄与していると考えられ、期待された効果が発現している。

また、年齢別に分析すると、20歳以上の人口は概ね増加しており、特に20歳から29歳の人口は前年比で8%の増加となっている。一方で、20歳未満の人口は減少している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞

②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29 年度～H30 年度）</p> <p>社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29 年度～R1 年度）</p> <p>防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1 年度）</p> <p>防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29 年度～R1 年度）</p> <p>災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29 年度～R1 年度）</p> <p>都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29 年度）</p> <p>中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29 年度～R1 年度）</p>
事業効果及び進捗状況	<p>本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、全 159 戸のマンションの整備によって、中心市街地の居住人口の増加が図られる。</p> <p>【スケジュール】</p> <p>令和 2 年度（2020 年度） 清算、事業終了</p>
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、居住人口の増加に寄与すると見込まれる。

③. 企業立地（誘致）促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成 1 1 年度～【実施中】								
事業概要	熊本市企業立地促進条例に基づき、立地企業に対し助成を行う。								
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29 年度～R3 年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>令和 2 年度の企業立地件数は 18 件となり、製造業・情報関連産業等、様々な企業が立地している。また、立地企業の新規雇用予定者数は 292 人にのぼり、中心市街地の居住人口の増加に寄与している。</p> <p>【当事業を活用した企業の立地件数】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 30 年度 （2018 年度）</td> <td>令和元年度 （2019 年度）</td> <td>令和 2 年度 （2020 年度）</td> </tr> <tr> <td>17 件</td> <td>12 件</td> <td>18 件</td> </tr> </table>			平成 30 年度 （2018 年度）	令和元年度 （2019 年度）	令和 2 年度 （2020 年度）	17 件	12 件	18 件
平成 30 年度 （2018 年度）	令和元年度 （2019 年度）	令和 2 年度 （2020 年度）							
17 件	12 件	18 件							

事業の今後について	事業は、積極的な誘致活動に加え、立地企業へのアフターフォローを充実させるなどの支援体制の強化によって、着実な企業立地に結び付けており、引き続き事業を進めていく。
-----------	--

④. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】		
事業概要	中心商店街に隣接する熊本市現代美術館内に「街なか子育てひろば」を開設する。		
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（H29年度～R3年度）		
事業効果及び進捗状況	街なかで、気軽に立ち寄れる子育て支援施設を設置することにより、誰もが子育てしやすい環境を提供し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。事業の令和2年度利用実績は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少している。 【利用実績】		
	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
	15,644人	19,186人	5,611人
事業の今後について	事業は、子育てに関する相談や情報収集ができる場として、子育て世代に優しい居住環境を整備するためには必要であり、引き続き事業を進めていく。		

⑤. ファッションの街くまもと魅力創出事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】		
事業概要	若者・女性への訴求力が強いファッションイベントを開催する。		
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R1年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（R2年度～R3年度）		
事業効果及び進捗状況	ファッションの発信地点として、とりわけ若者に高い影響力のある中心商店街においてファッションイベントを開催することにより、地域ファッション関連産業の活性化を図るとともに、若年層の地元就職率の向上にもつなげていき、若者等のまちなか居住を促進する。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりファッションイベントの開催は行わなかった。 【イベント来場者数】		
	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
	約7,000人	約9,600人	0人(イベント開催なし)

事業の今後について

コロナ禍以前は、ファッション産業の振興へ向けたコンテンツとしても次第に定着しつつあったことから、引き続き事業を進めていく。

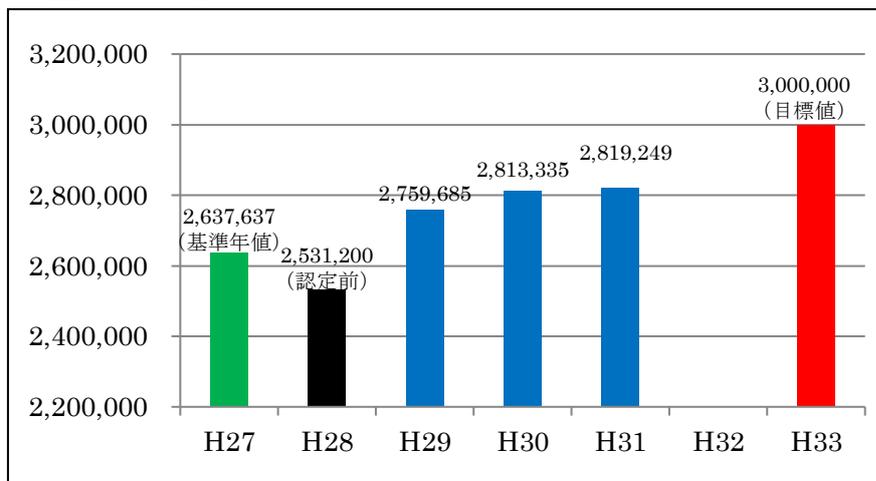
●目標達成の見通し及び今後の対策

企業立地件数が令和元年度を上回る件数となっており、それに伴って新規雇用予定者数も一定数確保できている。また、桜町地区再開発事業におけるマンション整備の影響もあるため目標達成は可能だと思われる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、街なか子育てひろば事業やファッションの街くまもと魅力創出事業といった多くの事業が予定通りに実施できなかった。今後は引き続き本市のビジネス環境等の優位性や都市機能の集積などを活かして、積極的に企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大につなげていく。また、UIJ ターンの取り組みにより居住促進を図っていくとともに、子育て支援施設の整備に伴い子育て環境を充実させることにより、中心市街地の居住人口の増加を図っていく。

「熊本市内の宿泊客数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H27	2,637,637 (基準年値)
H28	2,531,200
H29	2,759,685
H30	2,813,335
H31	2,819,249
H32	—
H33	3,000,000 (目標値)

※調査方法：熊本市内の宿泊客数調査からの集計

※調査月：毎年1月～12月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、令和2年度における市内宿泊客数については集計が完了していないが、国内外からの来訪者が減少していることから、中心市街地における宿泊客数の動向に多大な影響が及ぶことが想定されている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞

②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成20年度～令和2年度【済】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～R1年度） 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～R1年度）
事業効果及び進捗状況	本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、客室数約200室のホテルの整備によって、中心市街地の交流人口の増加が図られる。 【スケジュール（見込）】 令和2年度（2020年度） 清算、事業終了
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、市内外からの来訪者の増加に寄与し宿泊客数の増加の一助となると見込まれる。

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成25年度～令和3年度【実施中】 [認定基本計画：平成25年度～令和2年度]
事業概要	熊本城と中心市街地との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』』としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～R2年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年度は、本格的なシンボルプロムナード等のオープンスペース整備のため、飲食・物販やステージイベント等の利用が行われなかった。

	<p>【(仮称) 花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 30 年度 (2018 年度)</td> <td>令和元年度 (2019 年度)</td> <td>令和 2 年度 (2020 年度)</td> </tr> <tr> <td>448,809 人</td> <td>1,026,716 人</td> <td>0 人(イベント等の開催なし)</td> </tr> </table> <p>【スケジュール(見込)】</p> <p>令和 2 年度(2020 年度) 施設工事 令和 3 年度(2021 年度) 施設工事・施設完成</p>	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	448,809 人	1,026,716 人	0 人(イベント等の開催なし)
平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)					
448,809 人	1,026,716 人	0 人(イベント等の開催なし)					
事業の今後について	令和 3 年秋頃の整備完了に向けて着実に事業を進めていく。						

④. 熊本城マラソン事業(熊本市、民間事業者)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】														
事業概要	約 14,000 人のランナーによるマラソン大会を開催する。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(H29 年度～R3 年度)														
事業効果及び進捗状況	<p>エントリー者数における県外者の割合は、継続的に 4 割を維持しており、広報に工夫を凝らす等の事業の認知度向上の取り組みを進めることで、県外からの宿泊客数の増加に大いに寄与している。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、マラソン大会の中止を余儀なくされた。</p> <p>【エントリー者数】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>平成 30 年度 (2018 年度)</td> <td>令和元年度 (2019 年度)</td> <td>令和 2 年度 (2020 年度)</td> </tr> <tr> <td>エントリー者数</td> <td>25,552 人</td> <td>25,355 人</td> <td>0 人(イベント開催なし)</td> </tr> <tr> <td>うち県外</td> <td>10,216 人 (40%)</td> <td>10,066 人 (40%)</td> <td>0 人(イベント開催なし) (-%)</td> </tr> </table>				平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	エントリー者数	25,552 人	25,355 人	0 人(イベント開催なし)	うち県外	10,216 人 (40%)	10,066 人 (40%)	0 人(イベント開催なし) (-%)
	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)												
エントリー者数	25,552 人	25,355 人	0 人(イベント開催なし)												
うち県外	10,216 人 (40%)	10,066 人 (40%)	0 人(イベント開催なし) (-%)												
事業の今後について	事業は、本市の主要スポーツイベントとして県内外に広く定着してきており、引き続き事業を進めていく。														

⑤. 誘致戦略事業(熊本市)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	学会、大会などのコンベンション、コンサートや展示会等のイベント、企業研修やインセンティブトラベル等の誘致に取り組むとともに、受入環境の充実を図る。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～R3年度）														
事業効果及び進捗状況	<p>コンベンションの開催件数においては、令和2年1月から2月中旬までに開催されたものがほとんどであり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染拡大防止対策としてコンベンションの開催の中止を余儀なくされ、大幅に減少している。</p> <p>【コンベンション開催状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年 (2018年)</th> <th>令和元年 (2019年)</th> <th>令和2年 (2020年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>366件</td> <td>313件</td> <td>67件</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>140,913人</td> <td>139,053人</td> <td>21,754人</td> </tr> </tbody> </table>				平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	件数	366件	313件	67件	参加人数	140,913人	139,053人	21,754人
	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)												
件数	366件	313件	67件												
参加人数	140,913人	139,053人	21,754人												
事業の今後について	熊本城ホールの完成により大規模なコンベンションの開催が可能となったため、引き続き積極的に誘致することで、更なる市内外からの来訪者の増加を目指す。														

●目標達成の見通し及び今後の対策

熊本地震の影響に伴い市内の宿泊客数の落ち込みは顕著であったが、桜町再開発施設や熊本駅周辺の整備、熊本城の復旧といった事業が進み、また、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会といった国際的なスポーツイベントの熊本開催といった、多くの観光客を呼び込むことのできる話題を活用し、市内宿泊客数は順調に増加してきた。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、令和2年度における市内宿泊客数についてはまだ集計が完了していないが、国内外からの来訪者が減少していることから、中心市街地における宿泊客数の動向に多大な影響が及ぶことが想定されている。

今後、新型コロナウイルス感染拡大が沈静化を見据え、令和3年3月に完全復旧が完了した熊本城天守閣や、同月に完成した熊本駅白川口（東口）駅前広場、令和3年4月に開業を予定するJR熊本駅ビル等の事業と連携を強化し、一体的な利活用を推進することにより、中心市街地の更なる賑わいの創出を図る。さらに、令和4年4月には日本外科学会定期学術集会在が予定されており、引き続きコンベンションや展示会といったイベント等の誘致を進め、より一層の宿泊客の増加に向けて事業に取り組んでいく。